

■活動レポート

■学芸員室より

明日も天気にな～れ!

伊藤 浩之 (民俗部門・学芸調査員)

豊かな緑の木々に囲まれているので初めて来館された方にはなかなかその場所が分かりづらいのですが、岩手県立博物館の敷地内には国指定の重要文化財である『旧藤野家』と『旧佐々木家』という2つの古民家が存在します。両家は博物館設立と同時期にそれぞれ江刺市と岩泉町から移築されたもので、旧藤野家の方は伊達藩特有の直家(すごや)造り、旧佐々木家は南部曲り屋です。重要文化財に指定されているだけあってその歴史は古く、どちらも江戸時代に建てられてから既に200年以上が経過しています。にもかかわらず保存状態は良好で、しかも建築当初の姿をよく残しており、歴史的建築物としての価値は非常に高いと言えます。

博物館には、こうした貴重な文化財を保存し、お客様に気持ちよく見学していただける

よう管理する責務があるのですが、両家とも局所的な雨漏りや屋根の陥没がみられるようになってきたため、現在茅葺き屋根の全面葺き替えを中心とした大改修工事が行われているところです。工事のため一部民家内の見学が制限されており、来館者の皆様にはなにかとご不便をおかけしておりますが、どうかご容赦下さい!

ということで、民家担当となった私は時間があれば工事の様子を見に民家をのぞきに行くという毎日を送っております。今のところ天候に恵まれて順調に工事が進んでおり、既に改修が終わった藤野家の方は新しい茅の屋根が美しく黄金色に輝いています。この号が出る頃には佐々木家の屋根葺き替え作業を見ることができると思います。が深まってくれば、紅葉に囲まれた民家を見ることができると思います。家の中まで入らずとも、この景観を眺めるだけで

心豊かになること間違いなし!です。

移築以来の大改修工事が終わった後は、建物だけではなく見学・利用の充実も図りたいと思っています。室内の展示物を整理し、照明や解説を工夫してお客様に喜んでいただけるよう準備中です。また、お茶会や句会等の会場として民家を開放したいとも考えておりますので、来年度以降是非ご利用いただきたいと思ひます。それでは、民家と共に皆様のご来館をお待ちしております!



茅葺き作業中の『旧藤野家』

■解説員室より

博物館の名探偵

水車 淳子 (解説員)

ときどき、展示室で名探偵を見かけます。それは身長1m前後の子どもたちです。文字が読めず、理解できないからこそ名探偵になれるようです。大人はすぐに資料名が記されたプレートを見てしまいますが、それをぐっと我慢して名探偵を目指してみませんか?

子どもたちは資料を正面から観察するだけでなく、左右にうろろうろしたり、小さな身体をますます小さくしてしゃがみ込んだり、大人に抱きあげてもらい、大人の目の高さから眺めたりします。「何だろう?」と首をひねり、時には動物にもなりきって、自由な結論を出しているようです。たとえ、大人が教えても、「うそー!」、「なんで?」などと言って鵜呑みにせず、疑ってみます。さすが!名探

偵です。

また、名探偵たちは正直に反応します。例えば、とても大きな資料に驚き、恐怖を感じ、展示室に入りたがらなかつたり、泣き出してしまったりする子どももいます。薄暗い展示室に鎮座する仏像を気味悪がって近づこうとせず、そこだけ大急ぎで走りすぎたりもします。大人は、「怖くないよ」、「どうして怖いのか?」などと言って、子どものことを笑います。

しかし、次のように想像してみましょう。もし、大きな恐竜がいた時代に自分が生きていたら?「仏像」が何か知らずに、薄暗い場所で見たら?剥製や標本は動かないことを知らなかったら?さあ、いかがでしょうか?大人よりも子どもの方が、ある意味では資料をよく味わっているとも言えるのではないのでしょうか。

大人も大きな身体を縮めてみたり、四方八

方から資料を観察し、昔のものであれば当時の人間の気持ちになったり、昆虫や鳥の気持ちになったりして、あれこれ自由に想像してみましよう。博物館がもっと楽しい場所になりますよ。ほら、同じパレオパラドキシアでも、こんなに違います。

